

第IV期 第16回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

日時：2026年1月26日（月） 13時15分～14時7分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、高田昌広委員（Zoom）、瀧崎智佳委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、竝木則行委員、野村英子委員（Zoom）、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）高橋慶太郎委員、渡邊誠一郎委員、堀田英之委員

陪席：

（台外）運営会議：河野孝太郎委員

（台内）土居守台長（Zoom）、堀久仁子特任専門員、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

1. 確認

1.1 国立天文台科学戦略委員会名簿および出席者確認

本原委員長から、出席者の確認を行った。

1.2 第15回議事抄録の確認

本原委員長から、12月22日に開催された第15回国立天文台科学戦略委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

2. 報告と議論

2.1 運営会議（1/23）での意見交換について

吉田委員（副台長）から1月23日に開催された国立天文台運営会議における質疑応答の状況について報告があった。

2.2 実施計画策定手続きの検討状況

齋藤委員（副台長）から実施計画策定手続きに関して以下の報告があり、意見交換を行った。

- ・コミュニティからの意見収集は調整前の素案の段階で実施する。
- ・執筆体制及び科学戦略委員会委員長のオブザーバー参加の案に対して、台内会議では特段の意見は出なかった。
- ・科学戦略委員会との意見交換については、各ステップ科学戦略委員会を開催し進捗報告及びフィードバックの機会を設ける形を想定している。

（主な意見交換）

一予算別の各提案の優先順位についての確認は、本委員会によるレビュー会のような形も

考えられるのではないか。

－検討状況に関する情報統制はどうするのか。ある程度コミュニティに開示するのか、それとも委員会限りの中で進めていくのか。

－科学戦略委員会の委員から各コミュニティの運営委員会などに説明してもらい、コミュニティ全体に伝わるのが良いのではないかと考えている。

－検討状況の情報を出し過ぎた場合に国立天文台としての独立性、責任が取れない形に流れていくことを危惧している。バランスを見て慎重に進める必要がある。

2.2.1 再提出時のフォーマット

齋藤委員（副台長）から、実施計画策定にあたり改めて各提案者に提出を求める提案書のフォーマット案、及び提出時期（SRM 報告書の完成後 1 か月程度）について説明があった。意見交換の結果、各提案の分類に応じて記載を求める項目を選定することとし、案を用意して次回委員会で議論することとした。

また、齋藤委員（副台長）から、提案者に提出してもらうリソースプランの項目について案が示され、意見交換を行った。

（主な意見交換）

－先端技術センター（ATC）に対する提案者のリソース要求は過少見積りになっている可能性が高い。ATC が準備する、しないは関係なく、多少の過大見積りだとしても必要なものを全て書いてもらうのが良いのではないか。

－製造装置を整備し内製することにより、仕様が洗練され、コスト減も可能となりフィージビリティが高まる。ただし、新たな技術の導入には 10 年オーダーの時間をかけて取組む必要があり、高額な装置の整備には技術ロードマップが必要である。

－ボトムアップでは難しい。トップダウン的に誰かが技術の方向性をウォッチしながら先手を打つ必要がある。本委員会が担うのは荷が重い。

－提案者にヒアリングをする際に ATC の専門家に意見を聞けるような枠組みを作る必要があるのではないか。

－現時点では、既存のプロジェクトを除いて技術的な要求仕様まで詰められた提案はそれほど無い。そのような状況で、必ず実施する、実施しないといった実施計画を作ることが出来るのか。候補を挙げるぐらいではないか。

－各提案者から既に集めている要求リソースの情報もある。ATC が集計して将来シンポジウムで提示した数値の評価を行った上で次の問い合わせを考えるべき。

－国立天文台執行部と ATC で意見交換の機会を持ちたい。

2.2.2 複数提案の統合について

齋藤委員（副台長）から、実施計画における複数提案の統合に関する検討は現時点では行っていない旨の報告があった。

2.2.3 今回のロードマップ提案に入っていない活動の取り扱いについて（EACOA, OAO, 周波数保護室など）

齋藤委員（副台長）から、サイエンスロードマップへの提案に入っていない活動として、東アジア中核天文台連合（EACOA）において EACOA フェローシップ事業を自然科学研究機構の資金を得て実施していること、及び 12 月に開催した東アジア天文学会議（EAMA11）において参加機関の台長間で相互協力を約束したことについて紹介があり、外部資金で実施している取組みとして位置付けて議論に入れるとの説明があった。

以上